

平成 29 年 5 月 31 日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 様

| | |
|-------|--------|
| 議会報告会 | 1 班 |
| 班長 | 中村 彰男 |
| | 野田 宏規 |
| | 森田 洋一 |
| | 阿部 治正 |
| | 森 亮二 |
| | 徳増 記代子 |
| | 秋間 高義 |

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

記

- 1 日時 平成 29 年 5 月 14 日 (日)
午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分
- 2 場所 東部公民館 第 2 会議室
- 3 欠席議員 なし
- 4 来場者数
市民来場者 13 人
議員・職員 3 人
- 5 報告内容
 - ①流山市の子育て支援策の現状と課題について
 - ②東部地域の課題について

6 意見交換内容

①子育て支援策の現状と課題

市民（向小金）

公立保育園5年間の減り方、増え方は？ 子育てにやさしい流山を謳っているのに公立が増えて当然ではないかと思うのだが？

議員

流山市は私立を増やす施策をとっている。私立だと国の補助金が多いが、公立だと市の支出が多くなる。どちらが質が良いということは一概には言えないのではないかな。

議員

名都借と長崎の公立が減って、代わりに私立が二つ増えた。公立が古くなったからと言われたが、老朽化対策を講じればよい。公立の職員は公務員だが、公務員を減らした結果、市の支出の削減につながった。

市民（松ヶ丘）

東小学校の交通指導員をやっている。学童クラブにも質の問題がある。数が合えばよいというのは教育には当てはまらない。余裕を持った定員でないと質は向上しない。90人のところに92人入れている現状がある。人間をモノのように扱うのは問題ではないかな。

議員

余裕があれば、子どもを中心に考えるのは大事なことです。流山の現状ではすぐ定員いっぱいになる。市も努力して学童クラブを増やしているが、ニーズに追いついていないのが現状だ。ギリギリで定員が確保できているが、地域的には足りていないところもある。根本的には余裕のある取り組みが求められている。

議員

人としての取り扱いが大事というのはその通り。他方、指導員の能力の向上も必要。この点、指定管理者も取り組んでいると思うが。

議員

学童の問題は色々と聞いている。定員は余裕を持って確保する必要がある。1人あたりの面積確保は重要。なぜ学童クラブが足りなくなっているのか。母になるなら流山と言って流山に呼び込んでおきながら、学童が整備されていないのは、市長の政策が間違っているからだ。会派で学童の視察をした。マンションも増えている。子どもの数はこれからも増えるので、政策の失敗は許されない。

議員

定員の問題は大きい問題。合わせて、質の問題もあり、この点を議会で質問してきた。質の向上、質の担保の問題も解決していきたい。そのためのガイドライン策定は議会の取組みの成果と考えている。ガイドラインに基づいて質の向上を担保していきたい。自主運営から指定管理者になって確かに課題が増えている。1月11日の『広報ながれやま』で現状や課題について市民に報告した。任せっきりでなく、行政や議会が間に入って、保護者と連携しながら、質の向上や定員の確保などで調整をしていきたい。

市民

教育や福祉の専門家のアドバイスを受けるべき。子育て施策は、儲けじゃなく福祉を考える人の意見が大事だ。儲けの教育は破たんする。

市民

就学援助制度について、試しに高校について意思表示をした。世帯の合計所得が条件であったため、外れてしまったが。小中学校の場合、役所での手続きは極めて煩雑なのではないか。学校から配られる書類は分かりにくい。その書類に、仕事もしながら、最

初から最後まで読んで記入をしなければならない。学校の業務量も増える。その煩雑さを解決してもらえないか。

議員

目安となる年間所得金額はあくまでも目安。家庭の事情を書く欄もあり、それぞれの事情で通ることもある。役所に相談することが必要。収入では無く所得の金額に変えさせるなどの取組はしてきた。まだまだ研究が必要だと考えている。

議員

確かに市役所の書類はわかりにくい。行って手続きをしてみないとわからない。分かりやすくしていきたい。

議員

私たちも、現場の意見を聞いて、改善出来るところはしていきたい。

市民（向小金）

流山で4人の子育てをしてきた。流山の保育園は、子どもたちが可哀想。マンションが増えて人口が増えている。緑は減っている。市政の在り方が問題。マンション売するための市政になっているのではないか。子育てできるような流山にするべき。送迎ステーションは、子どもに接する大人が次々と替わり、子どものストレスが大きい。事故が起きた時の問題もある。テレビなどでは喜ばれているとの話もあるが、子供にとっては大変な状況。株式会社の保育園では保育士がころころ変わっているが、これも子どもにとっては大変なストレス。

市民（東深井）

娘が保育士をしている。株式会社は金もうけというが、この問題は保育士の主体性の問題だ。命を預かる仕事、公立だから私立だからという違いは無い。こういう場には、専門家として市の職員も同席させてほしい。私の孫は保育園児、娘は中学生。学童の問題も、今いきなり学童施設を増やせと言っても難しい面もあるの

で、親同志でお互いに預かってもらうとかの工夫も臨時的には必要。地域のふれあいの問題としても大事なことはないか。急激な人口増に追いついていない地域のあり方、まちのあり方が問われている。今すぐに止められない状態なので、その面での説明責任をとることが重要ではないか。

議員

専門家を同席させるべきという意見、学童に関して地域を巻き込んでと言う提言だと思う。これで解散になる今の総務委員会メンバーだが、一度預かって、議員の中でも検討をしていきたい。

②地域課題について

市民

歩道部分は地図で言えばどこになるのか。

議員

用地買収と取得に関する土地は地図の上部。歩道は下の部分になる。

市民

道路工事は東部中学校の裏までとなっているが、その向こう側、流山高等学園に通じる道もかなり危ない。その部分はどうなるのか。

議員

市民の皆さんの声は聞いている。現在予算が付いているのは東部中学校の裏まで。今後は流山高等学園に通じる道も計画に乗せてもらえるよう取り組んでいきたい。

市民

両事業の予算はどうなっているか。国の補助金、市の支出の内訳、費用対効果についての考えはどうか。

議員

名都借跨線橋は約5億5千万円、東小学校前の拡幅は1億8千981万円となっている。内訳などは後日報告をしたい。

市民

総務委員会に要望がある。流山市全体の通学路の安全についての予算はどれだけか。2つの自治会、交通指導員や学校から要望してもガードレールをつけてくれない。道路管理課に聞くと地盤から変えないといけないので100万円単位となるという話し。流山市全体の25校の通学路予算はたった200万円しかない。東小学校で20万円。これではガードレール1つつくれない。予算が足りない。白線を引いて横断幕をつけてくれと言っても4~5ヶ月もかかってしまう。目立つところにはおカネ使って弱者のためには使われていない。丁寧に調べて頂きたい。もうひとつ、交通指導員のボランティアの高齢化が進んでいる。PTAや教員に任せるのも無理。市で予算化をしてほしい。

議員

何億円かかる話しではない、なぜ数十万円の予算出せないのか。地域の議員にもしっかりと申し送りをしたい。

議員

一斉点検、解決しているというのが当局の答弁、予算化ができるものは委員会として検討したい。

議員

現場の貴重な声として受けとめる。市の予算・決算委員会では毎年学校と地域で通学路の一斉点検をする中でほぼ解決しているというのが当局の見解。現場の意見と議会での執行部答弁との食い違いも感じる。現場を見た上で、予算化出来るか含めて努力していきたい。

議員

私も交通ボランティアをやっている。向小金などでは孫の世代の

ためにとということで参加者が増えている。しかし松ヶ丘などでは減っているなど地域で差がある。考えていきたい。

市民

名都借跨線橋の話しで、地権者は残り9名と言うがどうなのか。跨線橋工事が完成すると車の量が増える。二車線になると混雑になるのは間違いない。信号機の設置を要望して欲しい。

議員

9名というのは筆数。信号機については検討するとの当局の答弁を得ている。

③その他の意見交換

市民（鱈ヶ崎）

市長あての手紙というのがある。市の憲章に皆さんが言ったことがすべて書いてある。市は市民のキャッチボールが大事。母になるなら流山という前に、市は身銭を切って欲しい。お母さんがどれだけの仕事をしているか分かっているのか。やることやってほしい。お金がないと言うが、特別職職員が自助共助公助をやれば、6月と11月のボーナスを削れば2億4千万円が浮くはず。

議員

私は公約通り報酬を2割カットし、相馬にも寄付をした。選挙落ちたが。

市民

おおたかの森小中併設校だけでなく、教室不足は深刻。他はボロ校舎、学校だけで無く公民館もボロボロ。おおたか周辺にだけお金を湯水のように注ぎ込んでよいのか。

議員

おおたかの森小中併設校の建設計画が持ち上がったとき、当時の教育福祉委員会で学校間格差の是正に取り組んできた。その延長

戦をやらなければならないかなと考えている。

議員

方法論としてはバスで子どもを移動させる、学区を変更するなどの意見も出ている。だが市の見解としては新しい学校をつくるという話になっている。新しい住民の中には新しい学校に通わせたいという声をあり、そういうリアリズムもあるようだ。しかしおたか周辺だけにおカネをそそぎ込んで良いのかという意見には同感である。今の総務委員会のメンバーの多くもそう思っているはず。新しい学校については、議員みんなですっかり検討していきたい。

市民

市の財政健全化の陳情を出し、採択された。しかし陳情の趣旨を具体化するための取組についての報告が当局からも総務委員会からも一切ない。陳情をあげることも容易ではない。採択した以上は取組について早期に結果を出す仕組みを作らないと議員としての資格が無い。採択した以上はそれを実現する取り組みを求める。

議員

当局も業務改善係を新たに作り、財政健全化で取り組んでいる。議会側も、広報公聴委員会などの大所帯の委員会のスリム化、視察の廃止など、二元性の下で見直しを進めている。キチンと報告をするように努めたい。

市民

流山は人口増で矛盾が出てきている。マスコミではバラ色のように報道されているが、実態はそうではない。マーケティング課などがイベントでイメージアップしているだけ。教育環境が整っているという事で流山に移り住んだが、だまされたという人もいる。入ってみたらマンモス校、先生たちも新任が多い。チェック機関としての議会の質問時間が短縮された。議員が4~5人分減った計算になってしまう。行政をしっかりとチェックして欲しい。その

ためにも、これは元に戻してほしい

議員

質問時間の短縮については同意見。議会は多様な意見を反映することが大事。短縮はデメリットがあると思うので、施行を踏まえて元に戻す立場からしっかりと追及をしていきたい。

7 参加者から議会への要望

①学童クラブについて

・学童クラブの定員は余裕を持ったものにして、質の向上もして欲しい。

・就学援助の手続きで学校から配られる書類は分かりにくい。煩雑さを解決して欲しい。

・学童クラブの事業は教育や福祉の専門家のアドバイスを受けるようにして欲しい。

②通学路の安全確保策について

・東小学校の通学路の工事は東部中学校の裏までとなっているが、流山高等学園に通じる道の整備も行って欲しい。

・流山市全体の通学路の安全確保のための予算を確保し、丁寧な実態調査をして対策を講じて欲しい。

③名都借跨線橋の整備について

・跨線橋工事が完了すれば交通量も増えるので、信号機の設置を行って欲しい。

④議会報告会の運営について

・専門家として市の職員も同席させてほしい。

⑤その他

・市民サービスのための予算を確保するためにも、特別職公務員は身を切る努力をして欲しい。

・教育環境の整備については、おたかの森駅周辺だけでなく、他の地域も配慮したものにして欲しい。

・議会で採択した陳情などについては、その実現を目指すための取組についてキチンと報告する仕組みを作って欲しい。

・議員の一般質問の時間の短縮はやめて、元に戻して欲しい。

8 所感

班長の中村です。お疲れ様でした。また、参加して頂きました皆様には休日にも関わらず有り難うございました。

今回のテーマ

①流山市の子育て支援策の現状と課題という事で、お子様のために一時保育を設定させて頂き総務委員会では初めての経験をさせて頂きました。

②地域課第2つきましては、名都借跨線橋の整備・東部小学校の通学路歩道整備に1日も早く実現します様、東部地区の議員が一丸となって取り組んで参ります。

今後、皆様と共に市政発展のため、議員一同頑張っけてゆく所存でございますので、宜しくお願いいたします。（中村彰男）

初めは、参加人数が少なく心配したが、後から駆けつけてくださったかたもいて、活発なご意見、ご要望があり、議会報告会の目的でもある市民の皆様の貴重なご意見、ご要望等の声をお聞きすることができた。今後の議会活動の中で、皆様の声を市政に反映させるため努力していきたい。（秋間高義）

今回は現市長の政策を酷評する参加者が目立った。質問時間となり指名をすると、まず前述の内容に関して多くの時間を費やして

持論を展開。制することなくお聞きしたが、議会報告会の位置付けからすると、少し違和感があった。次回の開催に向けて、議会報告会の位置付けや目指すべきゴールをしっかりと再確認する必要があると思われる。（森亮二）

発表内容、司会の進行など全体的な展開は、当初の予定通りと感じた。議会報告会は、市民との意見交換の場という、位置づけでよいと考えている。ただ、議員や執行部をやり込める場ではないので、そこは明確な一線が必要と思う。これまでの出席者をみると平日開催でも問題ない感じがした。（森田洋一）

質疑応答で盛り上がりを見せ、タイムスケジュールが押し気味になった。休憩等のバッファを設けていたことで、スムーズな運営はできたが、改善の余地はあると考える。議員側が複数のテーマで発言しているため、話題提供が増え、テーマが混在した議論になっているのではないかと。（野田宏規）

市民の参加は13人と少なめの参加でしたが、皆さんからは支援策の改善などの要望もあり、活発な質問、違憲もあり、充実した報告会と感じた。（徳増紀代子）

2つのテーマに加え、その他のテーマを設けたために、主観的には参加者の関心に不足なく応えることができたと思う。ただ、出される意見の傾向について言えば、やや多様性に欠けていたかもしれない。今の段階では、これも市民の意見の現状として前向きに受けとめつつ、更なる充実を目指していきたい。（阿部治正）